

2020年度 但馬定住自立圏共生ビジョン懇談会（但馬分科会）
会議録（要旨）

日時	2020年8月18日（火） 但馬分科会 14:00～15:00
場所	豊岡市役所3階 庁議室
出席者	但馬分科会 9名中9名
事務局	豊岡市（政策調整部長、政策調整課長、政策調整課課長補佐、政策調整係主査）
関係市町	養父市（経営政策課） 朝来市（総合政策課） 香美町（企画課） 新温泉町（企画課）
オブザーバー	兵庫県但馬県民局副局長 兵庫県企画県民部市町振興課 職員 豊岡市（環境経済部大交流課長）

◎協議

分科会長	それでは、ここから私の方で進行させていただきます。よろしく申し上げます。 事務局から「共生ビジョンの変更について」、説明をお願いします。
------	---

事務局	<説明> 【共生ビジョン（案）について】 【専門職大学について】
-----	-------------------------------------

分科会長	ありがとうございました。それでは、今、説明があったビジョンの変更について、それから、これに関連する専門職大学についての説明があったわけですが、これらについて、今日の説明だけではなく、事前に配られた変更案や資料1、2等も含めて結構です、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。
------	--

加えて、事前の配付資料の中に、懇談会の設置要綱というのがありましたけれども、見てみましたら、第1条に「ビジョンの策定あるいは変更にあたって、関係者の意見を幅広く反映させるために懇談会を置く」と書かれています。委員の皆さんはいろいろな分野から選出されています。その分野に関わる内容でもよろしいですし、それ以外の分野に関わる内容でも結構です。但馬地域の定住人口の増加に向けて、常日頃感じておられることとか、あるいは、次のビジョンの策定とも関係してくると思いますけれども、将来的にこういった内容も盛り込んでもらったらどうかといった意見がありましたら、ぜひご発言をお願いしたいと思います。特に、指名はいたしませんので、積極的かつ前向きな発言をぜひお願いしたいと思います。どなたからでも結構ですので、どんどん意見を言っていただき、発言をしていただきたいと思います。

委員	私は猟友会という立場で、有害鳥獣のシカやイノシシを相手にしており、コロナはあまり関係ないですけれども、世の中はコロナの話ばかりです。今回、いろいろと計画等を見させていただいたのですが、通常の年でしたら、こういう4年間があって、その後にはどういった数字になっているであろうということの変更
----	---

があったらいいのですが、今年からコロナが出てきて、コロナの対策をこの計画の中に盛り込むべきと思います。全世界的にコロナが大変な状況になっている中で、社会や経済・医療・教育まで、いろんなところで今の体制が崩れてきている。特に観光なんかはひどい状況になっている。コロナが1年で終わるとは当然思えませんので、やはり将来に向かって、但馬は安全なところだと言いたいのので、適切なコロナ対策のビジョンを入れ、対策をしているのだというところを出していきたいと考えているのですが。

分科会長

ありがとうございました。コロナ対策を明確に表すべきだというご意見がありました。これは国や県の対策とも関連してくるわけですが、私も同様の考え方です。なかなかこれについては、「はい、分かりました」という答弁にはならないと思うのですが、支障のない範囲で答弁ができれば答弁してもらって、あとは、明確なものが出せないのであれば、県に出してもらうというところでいいですが、とりあえず事務局。

事務局

このビジョンですけれども、作ったのが2017年、コロナがないときでございます。コロナ対策につきましては、今すぐにしなければならないことというのがたくさんあると思います。豊岡市もそうですし、他の市町もそうです。それから、兵庫県、国、今、全力で取りかかっているところです。コロナ対策をこのビジョンの中に入れるとなると、どうしても機動性といいますか、迅速性が損なわれると思いますので、それは難しい。ただ、このビジョンは来年度終わります。また新しいビジョンを作ることになるかと思いますが、その中には、コロナがあるという前提でのビジョンということになってくるかと思いますが、今の事務局としましては、来年度以降の新しいビジョンでコロナ対策のほうも検討したいと思っております。

委員

将来的に考えていただけるということでしたら、それで結構だと思います。

委員

交通網の関係でお願いしたいと思っております。昨今、豊岡市日高町、また、JAの本店の前の方には、大きな大きな道路が、もはや神戸の市街地のようにできております。もう我々香住にいるものからすれば、夢のような豊岡市だなと思っております。しかしながら、悲しいかな、豊岡ではなく鳥取のほうで早く着きそうだと。しかも、竹野から香住がいちばん最後だというようなことを聞いております。我々は香美町の代表で来ていますから、もう少し早く、定住自立圏構想の中で香住も一緒に手を組もうというように、ここに書いてありますから、県からも今日は来ておられます、一刻も早く、やっていただきたいなと思っております。

先ほどありました、コロナの関係でございますが、商売をするためにも、お客さんが来なければ全但バスも動きません。大きなバス会社はバス40台・50台稼働しなければ経営が成り立たない。経済なくしてまちの発展はないです。そんなこともじっくりと考えていただいて、「定住自立圏構想はいいな、よかったな」と言えるような会合であってほしいと思っております。

分科会長

ただ今のは、要望というふうに理解させてもらってよろしいですか。

委員

はい。

分科会長

もし、答弁できる部分があればぜひ。なければ要望として聞いておいてください。

事務局

要望としてお伺いさせていただきます。これと併せて3市2町の但馬自治会でも、常に国に要望活動をしております。但馬全体がよくなるような道路網の整備について、3市2町力を合わせてやっていきたいと思っております。

分科会長

よろしいですか。他の委員さん、いかがでしょうか。

副分科会長

1点確認をお願いします。新旧の変更につきまして、例えば朝来市でしたら、公共交通の形成計画、但馬空港の利用促進の関係協議会がございまして、指標、目標を作ったりしています。それがこの変更カ所に反映されていると考えたらいいですか。さまざまな数値の変更をなさっておられるのは、例えば朝来市の公共交通の交通網の計画立案しているのですが、こういうものは反映されていると考えたらいいですか。もしくは、但馬空港でしたら、但馬空港の利用促進というものを計画しておりますので、そういうものはこの変更のところに反映されていると捉えたらいいのかなと思ひまして、ちょっと質問させていただきます。

事務局

まず、但馬空港ですけれども、予算のほうに事業費として記載しております。こちら、それぞれ各市町の協議会への負担金ということになっていきますので、そういう意味で反映していると言えます。ただ、すべての計画がこの共生ビジョンに盛り込まれてはおりませんので、全部が全部、反映ということにはならないですが、このビジョン、特に鉄道関係であるとかバス路線の維持というようなことに力を入れておりますので、そのあたりの事業費を今年度予算に合わせて修正をさせていただいたということになります。

分科会長

よろしいですか。他にございませんか。

委員

昨今のコロナ等の問題につきましてあるメディアでは、経済が回復するまでに5年かかるという話も出ていますので、そういう長期的な見方で考えていかなければいけないと思ひます。

その件とは別に、地域公共交通、いろいろとバスの関係も出ておりますが、一般論としまして、現状の但馬の問題として、人口が減ってきて、それぞれ各地域にいわゆる過疎集落が増えて、そこには高齢者の方だけが残るというような現状、皆さんご承知のとおりかと思ひます。そこにどう足の確保をさせていただくかというのが今後、私どもも含めた公共交通機関の役目だと思ひます。今、公共交通としましては、「ラストマイル」というワードで検討をしているところでして、バス停から降りてから、自分の家までの足を確保する。それについてはいろいろな方法が、特にICT等を使ったような、究極的には自動運転ということも国は考えているようです。将来的にはそういう方向性で検討しているのが我々全事業者の考えであります。今のいろいろなご意見の中にはそぐわないかもわかりませんが、一応そういう認識をしていただけたらと思ひます。

分科会長

ありがとうございました。

委員

ビジョンの変更については特に意見はないのですけれども、新たなビジョン策定を今後されるのであれば、定住人口をどうするという部分があれば、いちばん

は、これは豊岡市の部分にも入っているのですけれども、但馬をこれから担ってくれる若者を但馬での就業という部分、今、県民局や各市町でも非常に力を入れてもらっているのですけれども、子どもたちが但馬に戻って働いてくれるという、多くの今の但馬の子どもたちに、但馬の企業をもっと知ってもらおうという、そういった取り組みを各市町も含めてやらせてもらっています。そういった部分を但馬全体でこのビジョンに取り組む中で、より大きく位置づけて、積極的に取り組んでいただけたらどうかという思いであります。

それから、ちょっと気になるのは、このビジョンをどう実現していくのか、このビジョンの取り組みをどう進めていくのかという点がちょっと気になる部分であります。というのは、進めていくための取り組みのための仕組みというのが非常に重要だと思いますけれども、例えば取り組みを見ると、分野によっては先ほどから出ていますけど、示された評価の指標の目標値と現状値に大きな差があるという部分があります。防災は、未実施というふうに出ております。このビジョンでは関係市町の連携という記述がいろいろなところに出てくるのですけれども、やはり目標値達成のためには、文字通り人の連携、これらを進めていく仕組みが必要なのではないかと考えております。そこが一部を除いてまだまだできていない部分があって、本来はそこもビジョンの必要な中身になるのではないかと考えています。また、これも新たなビジョンの策定にあたっては、そういったビジョンを絵に描いた餅にしないような推進体制の構築、こういった部分も含めて検討いただけたらどうかと思います。

分科会長

ありがとうございました。今2点ほど要望が出ているわけですが、何かコメントはありますか。

事務局

定住人口の増に向けての取り組みというのは、但馬全体でもやっていく、その上で就業というのは大きなキーワードとなると思いますので、また次のビジョンでも入れていくというようなことで検討していきたいと思っております。

もう1つ目標値と現状値に大きなかい離があるというご指摘でございます。特に挙げられました防災の関係の各市町との連携した訓練というのは、以前からもご指摘をいただいております。担当課のほうにも投げるのですがなかなか実施に至っていない、連絡ができていないというようなことでございます。このあたりは、当初の設計から再度見直す必要もあるかと思いますが、現実的に3市2町が集まってやろうかという、担当課によるとできないということでもありますので、本当に申し訳なく思っておりますけれども、絵に描いた餅にならないように少しでも達成に向けて努力していくようにしたいと思います。

分科会長

よろしいですか。次期のビジョンに向けての要望が次々と出てきていますので、そのあたりはよくご理解をしておいてください。他の委員さんはありませんか。

委員

今回、専門職大学の設置ということでお話がありましたが、当病院も看護専門学校を持っています。現在大学志向が進んでいて、学生確保も非常に困難な状況になっていまして、今回、大学ということで素晴らしいなと思っているところで

す。八鹿病院看護専門学校を出た学生の大半は、公立八鹿病院もしくは公立豊岡病院に入職というかたちになりますけれども、今回、この専門職大学設立にあたって、卒業後の地元に残ってもらうための企業誘致であるとか、地元企業への入職を促進するような動きとか、何らかのお考えというものはおありでしょうか。

オブザーバー

特別、そこを意識して積極的にやっていることではないのですけれども、先ほどご説明したとおり、相当の実務研修を課せられます。実務研修の場として、豊岡であったり、但馬の観光施設であったり、交通事業者であったり、文化芸術施設などで実務研修を受けます。そのことが残ることのきっかけになれるように、地元の受入れ側も魅力ある職場づくりが必要ではないかと思います。

委員

ぜひとも、若者が残れば、我々病院も若者定住促進につながっていくのかなと思っていますので、よろしくお願いします。

委員

定住自立圏というのは、そもそも人口増を目指しているというふうになってくると思うのですけれども、これで見ると、社人研の推計どおりのペースで進んでいるような印象を受けます。その中で特に但馬地域では、若者の定住ということにターゲットを絞ってやっていくべきではないか。そのことが学校を守っていくということにもつながってくるのかなと。いつも思うのだけれど、報告ばかりで具体論というのがほとんど出てきていない。というのが、1つでもいいから「絶対これをやるんだ」というような、人口増のためのものを、やはり目標値として出していくべきではないか。先ほども出ましたけれども161,000人ということをもっと具体的に出していくべきではないかと。この中にあるのか分かりませんが、目標値として161,000人と言う。それでいくと、1年間で但馬の2,700～2,800人減少でとどめるというふうになるのかなと思います。そういう161,000人をどうもっていくかというような具体論で取り組んでいくということが必要かなと思います。

もう1点、コロナの件ですけれども、いろいろな補助金だとか、いろいろなものが出ていますけれども、いちばん肝心なものは、コロナにかかったときにどうなるのだろうということだと思います。但馬ではどれだけの病院に入院ができるのか、重病患者になったらどうなるのか、どこに連絡して、どこで検査を受けるのか、というようなことをもう少し住んでいる皆さんに公表して、安心感を与える。やはりいちばんは安心感ではないかと思います。新温泉町は残念ながら鳥取には出られないです。鳥取は非常に近く、すつと行けるんですが、県が違う。新温泉からの入院が神戸になってしまうと、行くとなると大変なものになってくる。それにはかからないのがいちばんだけれども、そういうことをもう少し行政責任として、もっと地域に公表すべきかなと。みんなかかったらどうなるのだろうと思うが、よく分からない。まずどこにどういうふうにして連絡すればよいのかということも分からない。そういうことをもっと具体的に出していくべきではないかと思います。商工会だから補助金にどうのこうのという、そういうもの以前にその辺のところをきっちりやっていくべきではないかと思います。

分科会長

2点ありまして、1点目は、目標値の設定と、それへのアプローチの仕方、2点目はコロナ、こちらは要望としては強いものがあるかと思えますけれども、回答できる範囲で、これはまさしく県の考えもあるでしょうから、この場で明確な答えはできないと思えますけれども、できる範囲で2点について。

事務局

目標値の関係です。確かに目標値を設定して、そこに向かうのだという意識は非常に大切で、それに向けての施策、この中に入っているようなことが必要だと思えます。これは但馬3市2町全体もそうですし、今それぞれの市町が地方創生の総合戦略を立てて、一所懸命頑張っているところです。なかなか人口が増えるというところまではいきませんけれども、人口の減少を穏やかにしていく、しかもその質として、若い人を増やしていくというところで、各市町とも頑張っていると思えます。各市町、それから、但馬全体で補完していく必要があるかと思えます。そういった中で、この但馬の定住自立圏共生ビジョンは地域の生活基盤を強化していくことが、それに寄与することなのかなというふうに考えておりますので、そこも含めて3市2町でやっていきたいと思っております。

コロナの関係は、豊岡市も必要な情報がしっかり届いていないというのは、課題としては思っております。いろんな手立てで、ホームページであるとか防災行政無線とかでやっておりますけれども、なかなかしっかり届いていないのかなと思っております。

分科会長
委員

よろしいでしょうか。他にございませんか。

専門職大学のことで、初歩的な質問ですけれども、専門職大学ということですから、いわゆるプロフェッショナル育成というコンセプトかと思うのです。観光と文化芸術、この2つの専門職というかたちですが、先ほど卒業した後どうするか、但馬に足をつけていただけるのかというご意見もありました。特に日本各地でいわゆる専門職、芸術大学とかありますけれども、卒業してから、そういう道に専門的に進まれる方はごく限られた人というようなことも聞いております。私の知り合いでも、なかなか職がないということで、全国各地を渡り歩くような方もおられるようです。卒業した後、但馬に足をつけて、腰を据えていただくというのが必要だと思えますけれども、その辺はどういうふうにお考えかお伺いしたいと思います。

オブザーバー

先ほど申し上げましたとおり、1学年80名でございます。卒業生80名の数は少ないようではありますけれども、但馬圏内で考えると相当インパクトがある数であります。その80名の方々が残っていただくということの直接的な効果だけではなく、そういった大学があるということで、まちの魅力が高まることによって、大学だけの効果ではなく、まちの魅力が高まり、他の大学出身の子どもたちが帰ってくるということも含めての大学がある効果だと思えます。

ご心配されております芸術という専門職のところで就職先があるかどうかにつきましても、芸術的な勉強をしたから芸術につくということではなく、1学年1学科なので、クロスするという考え方で、芸術的な勉強もして、芸術的な仕事場につく人もいらっしゃるし、芸術的な勉強をして観光の職場につく人もい

らっしゃいますし、両方勉強するけれども、全く関係ないところに就職される方もあるかと思います。芸術を勉強した方々がすべて芸術に携わる仕事場を確保しなければならぬというのは、あまり考えていないということが1つです。

もう1つ、この大学の就職先としての但馬の就職率が但馬の若者の人口を増やしていくという直接的な効果もありますけれども、それプラス、大学があることによるまちの魅力を高めることによる間接的な若者たちの誘因という、2つの効果を狙っているということでご理解いただきたいと思います。

分科会長
委員

よろしいですか。他に。

共生ビジョンは今後また見直しがあると思うのですが、見直しに向けての考え、進め方ですが、いろいろな事業がたくさんあります。これらの事業について、検証して、必要な事業は続ける、必要のない事業はやめるとか、また新たな事業をしていくというようなことをやっていくということでもよろしいですか。

事務局

来年度の作業になってきますが、現行ビジョンの検証をした上で、引き続き、継続して行う事業であるとか、足す事業、減らす事業というのを考えていきたいと考えております。

分科会長

本日、県の市町振興課と但馬県民局からもお出でいただいております。何かコメントできるようなことがありましたらお願いしたいと思います。

但馬県民局

非常に活発なご議論で、率直な、建設的なご意見を聞かせていただいて、非常に私も参考になりました。何点かその中で重要なことを挙げられたと思いますけれども、どうしても今のビジョンというのが、現状に対してどれくらい目標に達しているかということところが非常に細かく分析されていまして、非常に緻密なデータにはなっていると思うのですが、そこに至るまでの仕組みづくり、その方向の部分が、中ではおそらく議論されていると思いますが、このビジョン案の中ではなかなか出てこない。その仕組みづくりというのは、但馬と言いましても、当然、北但と南但、あるいは、西と東、やはり文化も地域も違う部分がありますので、その違った3市2町がどう連携をしていくかということが非常に重要だと思いますので、その連携の仕方ですね、そのビジョンを達成するためにいかに連携をしていくかということが非常に重要だと思いますので、その検証はしっかりとしていただきたいと感じました。

それから、委員からのご発言がございましてけれども、2021年に161,000人を目指すというような記載、このビジョンだけを見ると、これもいきなり唐突に出てきたような感じがするので、その根拠というのか、なぜ161,000人なのかということところが少し具体性を持たせて進めていく必要があるのかなと思います。説得力を持たせる必要があるのかなという感じがしました。

あと、with コロナの話も出ましたけれども、コロナについてどうしていくのかという話も、これは皆さん、いちばん気にかけておられることだと思います。やはり、コロナと共に生活していくのはほぼ避けられないところであると思いますので、それは先ほど事務局の話の中で、次期の計画に盛り込んでいくというような話もありましたから、そこはぜひともそういうようなかたちで、コロナの中で

どういうふうにビジョンを進めていくのかというのは、しっかりと明確にしていただければと思います。

雑駁な感想ですけれども、ひととおりに聞かせていただいて、そのようなことを感じました。県民局としましても、県としても十分にサポートしていったら、但馬がよりよい方向に向かっていくよう、一緒になって考えていかなければいけないことですので、皆さんのご協力をよろしくお願いします。

県市町振興課

印象に残ったのが、皆さん、やはり人口を増やすというところのご意見が多かったかなと思いましたが、3市2町の中で人口を取り合うということではなくて、専門職大学のお話にもあったように、Uターンの方、Iターンの方を増やしていくというところの考えがすごく印象に残りました。その中で、専門職大学がある豊岡市だけではなく、但馬の定住自立圏として、専門職大学を設置した中でどうやって定住自立圏構想の中で人口を増やしていくか、というところがすごく今後気になるところだと個人的に思いました。本日はありがとうございました。

分科会長

市町振興課と、それから、県民局の方からは適切なご指摘をいただきまして、ありがとうございました。

委員の皆さん、ご協力をありがとうございました。この後については、事務局のほうでお願いします。